

PEC 熱応答試験機 TRT 業務に参入

高速掘削機SP1800を柱に地中熱交換井(ボアホール)の設置工事など地中熱事業に取り組みPEC(埼玉県浦和市、遠藤計社長)はこのほど、地中熱利用の設計で重要なサーマルレスポンステスト(TRT)業務も本格化させる考えを明らかにした。このたびTRT試験機を導入し、先月14、15日の両日はTRT試験機の展示説明会を開催する(名古屋悟)。



本社屋に地中熱利用ヒートポンプ空調システムを導入したPEC本社と遠藤社長

「AGC-003」を導入

同社が取り組むTRTとは、地中の熱伝導率から地中熱利用システム設計の最適化を図る重要なプロセス。ヒーターとポンプをつなぎ、地中熱交換器を挿入する井戸に温水または不凍液を循環させ、温度変化で熱伝導率を計測するもの。

水または不凍液をヒーターで温めながら循環させると、熱伝導率の低い地層では温度上昇が早く、逆に熱伝導率の高い地層では温度上昇が緩やかになる。TRTはこのように地域、地層により異なる熱伝導率を測る

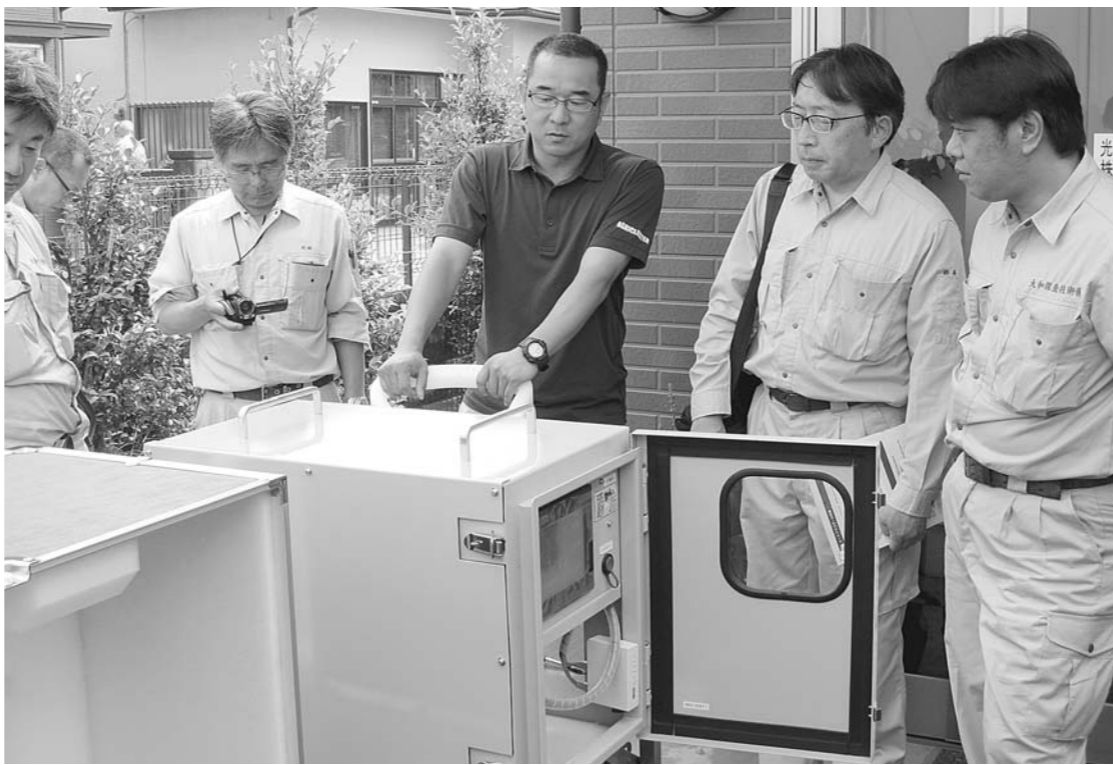
高性能試験機を導入

顧客向けに展示説明会も

ことで、建物などの規模に応じた最適なボアホールの長さを決めることができるため、重要な業務の一つとなっている。

TRT業務の本格化に当たり、同社はアグリクラスター製のTRT試験機「AGC-003」を導入した。AGC-003は、本体重量39kgと持ち運びが容易な点が特徴。電源は単相200ボルト。防滴仕様になっており、屋外での使用でも天候に左右されることなく、加熱ヒーターは最大5.7型、5.7型のタッチパネル方式を採用しており、収録データはUSBメモリでコピーして解析できる。操作性も高い点が注目されている。

展示説明会には、手ゼネコンなどの50名が参加した。PECでは先月14日、15日の両日、アグリクラスターと共同でTRT展示・説明会を開催した。は大手ゼネコンの担当者をはじめ、約50名が来場した。顧客の幅広いニーズにこたえられるよう努力している。PEC社長は「TRT試験機を動かしながら、今後はTRT業務を進めたい」と意気込みを述べた。



TRT試験機「AGC-003」の持ち運びやすさに関心を集めた

「AGC-003」は、本体重量39kgと持ち運びが容易な点が特徴。電源は単相200ボルト。防滴仕様になっており、屋外での使用でも天候に左右されることなく、加熱ヒーターは最大5.7型、5.7型のタッチパネル方式を採用しており、収録データはUSBメモリでコピーして解析できる。操作性も高い点が注目されている。

を語った。

TRT試験機の展示、講演のほか、10年8月に自ら導入した同社本社屋の地中熱利用ヒートポンプシステムも公開。また、近隣で同社がボアホール工事を実施していたことから、希望者はボアホール工事現場の視察も行った。

ボアホール工事は累計34件4927mに達している。

06年4月に光洋土質調査の試験部門を一手に担う会社としてスタートした同社は、10年には高速掘削機SP1800を国内で初めて導入。ボアホール設置事業に着手し、地中熱利用事業に参入した。今年3月までに延べ34件、約4927mのボアホール工事を実施。北は青森県から西は愛知県まで幅広く受注している。

土壌の熱容量に基づいた設備の最適設計に役立つ情報を提供

水井戸熱源の活用でイニシャルコストを大幅に削減



サーマルレスポンス試験機 AGC-003 型

高性能地中熱交換技術 ヒートクラスター™ 特許第5067906号

HEAT CREATION SYSTEM 利用可能な熱源の提案とヒートポンプの 組合せで最適な省エネ環境を実現

主な事業内容

1. 戸建て住宅の地盤改良技術とソーラー・蓄熱技術の融合による給湯・冷暖房システムの構築
 2. 事業所向け自然エネルギー事業の企画・立案及びシステム開発
 3. 農業エネルギーコンサルティング
- ◇ソニックドリルを用いた地中熱探熱杭の設計・施工管理
 - ◇サーマルレスポンステスト機の開発と販売

AGRICLUSTER

株式会社アグリクラスター

〒338-0001
さいたま市中央区上落合 2-5-35 IKビル2F
TEL. 048-851-2655 FAX. 048-851-2656
URL: <http://www.agricluster.com>